

平成27年8月10日

貝塚市議会議長 殿

研修会参加報告書

報告者 平岩征樹

参加者 平岩征樹

JISSEN～自治体政策青年ネットワーク～2015年 第1回勉強会

障害児保育園ヘレンの取組みについて

開催日：平成27年5月18日（月） 12：45～15：00

会場：NPO 法人フローレンス

102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-7-7 秋穂セントラルビル 2F

- 内容…
- 1、病児保育事業
 - 2、おうち保育事業
 - 3、コミュニティー創出事業
 - 4、障害児保育事業ヘレン

NPO 法人フローレンス事務局から、先ずそれぞれの事業概要をご説明頂いた後、本題の障害児保育事業のお話を伺った。



1、病児保育事業

全国的にフローレンスの名が知れ渡ったのはこの病児保育事業が始まりであり、フローレンスのコア事業である。社会起業として全国に先駆けて全く新しい「地域密着型」病児保育事業を展開し、現在では3000人の利用者でスタッフ300名を抱える事業に成長。利用者は登録して毎月定額料金を払い利用時にプラス利用料金を払うというシステム。全国でも成功したモデル事業として似たような事業が立ち上げられている。

2、おうち保育事業

空き家を活用した少人数で手厚い「おうち保育園」を待機児童の集中地域にピンポイントで開園し、待機児童を解消しようという発想から生まれた事業。子ども12人に対し保育スタッフ4人を配置し、大規模な集団保育では難しいひとりひとりの発達状況や個性に合わせたきめ細やかな保育を行なっている。東京都認証保育。

3、コミュニティー創出事業（グロースリンクかちどき）

横との繋がりを重視した子育て支援を目的にコミュニティーガーデンとして勝どきにオープン。マンション開発事業主である東京建物とのコラボで場所代負担なく、1回500円の利用料のみで利用できる。現在では年間12000人が利用。

4、障害児保育園ヘレン

未就学の障害児を対象とした児童福祉法に基づく児童発達施設支援事業。重い障害をもち、一般の保育園の預かりが難しい子どもを対象にした保育園。保護者が就労や介護などの理由のために、週5日の就労が必要な子どもが利用可能。週5日、18:30までの保育を行っている。



障害を持つ子どもの保護者の状況として、「常勤雇用率が低い」「年収 500 万以下」「母親が働いていない」などの課題がデータから読み取れる。

この課題を克服する為、「医療的ケアを行う」「長時間保育に対応」という特徴をだし、15 人の定員に対し 2 名の医療スタッフ、作業療法士をおき、長時間保育に対応しているという。

通所型の児童発達施設などでは、長時間保育に対応しておらず、これにより親が働くことができない、という課題を解消できるとのこと。

実際、子どもを預けた保護者の収入の増加などの影響も見られている。

利用者の保護者からは、「仕事をする事で母親以外の自分を再確認し、会社で評価してもらうことで自信に繋がり、子育てに関してもあれこれ悩むことが減った。」「子どもの世話と家事に追われ、育児とは程遠い生活で家にいることに限界を感じていた。子どもの成長、親の肉体的・精神的にもヘレンを利用して良かった。」という声が聞かれるという。

また、保育の特徴として、遊びながら子ども達の自発的な気持ちを大切にし、心と体の発達を促すことを心がけているようだ。

開設にあたっては、費用の面で苦慮したようだが、杉並区役所の障害者施策課と連携し、開設費用の補助を経て開園。区からの補助の為、杉並区民を 8 割という制約があるとのこと。当初、江東区での開設も考えたようだが、開設費用の補助が受けられないことや、場所の確保が難しい、などの理由で断念。他にも費用面に関しては、西友など企業からの寄付なども受けているとのこと。

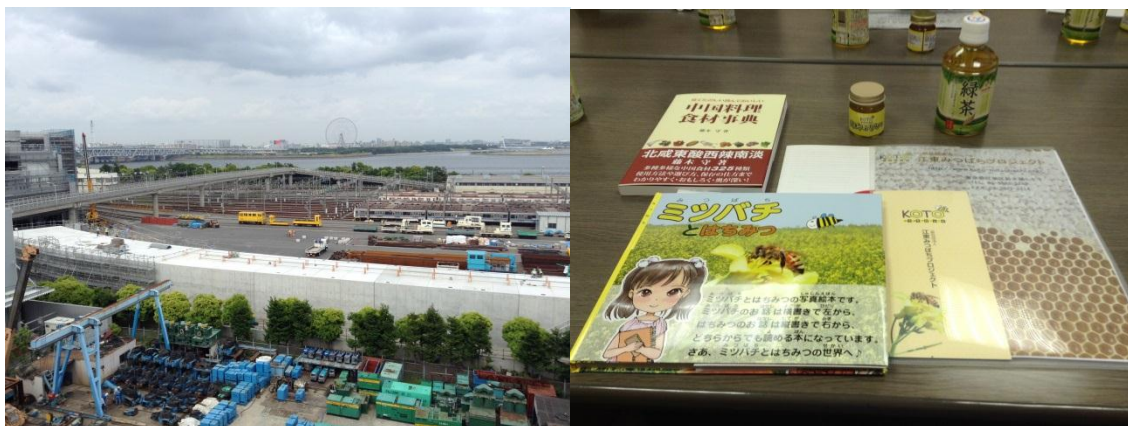
障害児保育の取組みは、どこの自治体でも大切であるが、多くの自治体が設置の費用補助などの制度がなく、今後の課題であると感じた。



江東みつばちプロジェクト

開催日：平成27年5月18日（月）16：00～17：30

会場：株式会社藤屋（東京都江東区新木場四丁目6番9号）



「江東みつばちプロジェクト」は、2013年7月に東京都江東区新木場にある株式会社藤屋の屋上にて養蜂をスタート。近隣には若洲海浜公園、夢の島、葛西臨海公園などがあり、みつばちが蜜を取りにいく蜜源となっている。

ミツバチの飼育（養蜂）から、採蜜体験などによる地域交流を積極的に行い、交流を通じて、ミツバチの巣箱の設置や緑化活動を広げ、江東区の活性化に貢献されている団体である。



屋上にあるみつばち飼育小屋を見学。巣箱を開けて、蜜がたっぷり入った内部も見せて頂いた。

見学後、会議室にて、宮武理事長、阿南様をはじめとする、プロジェクトメンバーの皆様、株式会社藤屋の藤木社長より、みつばちプロジェクトの取り組みについて、質疑応答などを多く交えお話を頂いた。



独自に「みつばちとハチミツ」という写真絵本を作成し、江東区の幼稚園、保育園、学校施設にも寄贈するという活動も同時にしているとのこと。

みつばちの生態やハチミツ、環境問題など様々な視点からの質疑応答にも答えて頂いた。



みつばちプロジェクトは、緑化推進や地域活性化など、地域貢献に役立つ都市養蜂の取り組みで素晴らしいものだった。

このような民間の取組みを自治体としてどのように応援協力していけるのか、今後の施策に活かしたい。